

平成20年「野球殿堂入り」記者発表

事務局長 小林二三男

野球殿堂は、日本の野球界の発展に大きな貢献をした方々の功績を讃え、顕彰するために1959年(昭和34)に創設されました。殿堂入りされた方々の表彰レリーフ(ブロンズ製胸像額)を野球体育博物館の殿堂ホールに掲額し、永久にその名誉を讃えます。

今回表彰規程が改正され、競技者表彰委員会はプロ野球経験者を対象に「プレーヤー表彰」と「エキスパート表彰」の2部門で選考することになりました。

特に、「プレーヤー表彰」は選手を引退して後、5年経てば現役の監督・コーチでも殿堂入りすることが出来るようになり、若い内での殿堂入りが可能になったわけです。

「殿堂入り」は終着点でなく、一つの通過点であって、今後より一層野球界の為に精進をお願いしたいとの願いを込めたものであります。

特別表彰委員会は主に「プロ及びアマチュアの組織又は管理に関して顕著な貢献をした方、又アマチュア野球の競技者を引退した方」を対象に選考することになりました。

1月8日(火)に第48回競技者表彰委員会を開催し、「プレーヤー表彰」は元広島東洋カープの山本 浩二氏、元読売ジャイアンツの堀内 恒夫氏が選出されましたが、「エキスパート表彰」は75%を超える得票者が出ず、残念ながら該当者なしとなりました。

1月9日(水)に第47回特別表彰委員会を開催し、故・嶋 清一氏が選出されました。今回の選出で野球殿堂入りは競技者表彰72名、特別表彰92名、合計164名となりました。

記者発表は1月11日(金)午後3時より博物館の殿堂ホールにおいて行われ、根来理事長より殿堂入りの伝達があり、豊蔵・小池両常務理事より通知書が授与されました。

殿堂入りされた方々の喜びのスピーチです。

山本 浩二氏「広島一筋でやってきましたが、決して1人でやれたわけではありません。折々に良き指導者に巡り会えたのと、良きライバルに恵まれたことが幸せでした。本日は感謝しております。」

堀内 恒夫氏「巨人のV9の一員になれたことを光栄に思っています。私に関わって頂いた皆様に感謝しています。」

顕彰者にはそれぞれゲストスピーカーとして、山本氏には広島黄金期の監督の古葉 竹識氏、堀内氏にはジャイアンツV9を共に戦った福岡ソフトバンクホークスの王監督、故・嶋 清一氏には明治大学野球部総監督の別府 隆彦氏を迎え、お祝いのお言葉を頂きました。会場にはマスコミ28社、86名の取材陣が集まり、熱気あふれる記者発表となりました。



後列左から 小池 唯夫常務理事、根来 泰周理事長、豊蔵 一常務理事
前列左から 山本 浩二氏、堀内 恒夫氏、別府 隆彦氏



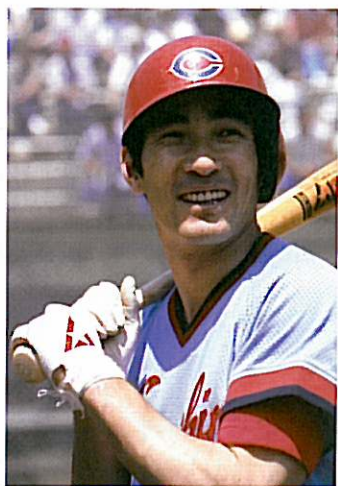
後列左から 古葉 竹識氏、王 貞治氏
前列左から 山本 浩二氏、堀内 恒夫氏、別府 隆彦氏



競技者表彰委員会

第48回の競技者表彰委員会は、ミスター赤ヘルと呼ばれ広島の主砲として活躍した山本 浩二氏(61)と、V9巨人のエースで通算203勝を挙げた堀内 恒夫氏(59)を選出した。

2人は同時代のライバルだった。初対決は69年4月26日、山本氏がいきなりの2点二塁打した。これだけでは終わらない。堀内氏が現役を引退した83年、最後の対戦でも山本氏にしてやられた。同年10月3日、左翼への本塁打だった。通算204打数62安打の3割4厘、21本塁打。山本氏が「けっこう打ったなあ」と振り返れば、堀内氏は「体は開いているのに、外角の球をよく打たれました」。監督としても広島、巨人を率いて対決し、2年前にそろってユニホームを脱いだ。そんな2人が同じ年に殿堂入りした。「因縁というか、縁があるんだなあ」と口をそろえた。



山本 浩二氏 プロフィール

1946年10月25日生
廿日市高校—法政大学

1969～86年 広島

1989～93年、

2001～05年 広島監督

プロ野球実働18シーズン

2284試合 8052打数 2339安打

1475打点 536本塁打 打率.290

首位打者1回 本塁打王4回

打点王3回 最多出塁3回

最優秀選手2回

ベストナイン10回

ゴールデングラブ賞10回

監督成績(10年)

1359試合 649勝681敗29分 .488

リーグ優勝1回

山本氏は法大から69年に地元広島に入団した。75年に3割1分9厘で初の首位打者を獲得して、チームを初優勝に導いた。MVPに輝き、以来「ミスター赤ヘル」と呼ばれた。本塁打王4度、打点王3度。通算2339安打、大学出身者では最多となる536本塁打を放った。ゴールデングラブ賞を10度獲得し、盗塁数も231と、打って守って走れる3拍子そろった選手だった。

堀内氏は甲府商から66年に巨人入りした。1年目から1軍入り。球威十分の直球に、タテに大きく割れるカーブもあって、打者を寄せ付けなかった。新人記録



堀内 恒夫氏 プロフィール

1948年1月16日生
甲府商業

1966～83年 巨人

1984～85年、

1993～98年 巨人コーチ

2004～05年 巨人監督

プロ野球実働18シーズン

560登板 203勝139敗

3045回 1865奪三振

防御率 3.27

最優秀防御率1回

最多勝利1回 新人王

最優秀選手1回 沢村賞2回

ベストナイン2回

ゴールデングラブ賞7回

監督成績(2年)

284試合133勝144敗7分 .480

となる開幕13連勝を含む16勝(2敗)、防御率1.39で、新人王、最優秀防御率、沢村賞を獲得。72年には26勝で最多勝、MVPを獲得するなど、V9巨人をエースとして引っ張った。

今回から表彰規程が改正され、プレーヤー、エキスパートの2部門に分けられた。前出の2人はプレーヤー部門での選出だった。競技者表彰の有資格者は、現役を引退して5年を経過した競技者として、昨年までは監督、コーチなど指導者になった場合は現役とみなされて資格取得が遅れ、殿堂入りも遅れた。同時に選手としての評価

と、指導者としての評価が混同される、などの問題点もあげられていた。そこで2つに分け、現役を引退していれば、指導者になっても選手として候補になれるプレーヤー部門と、指導者としての評価も加わるエキスパート部門を設けた。

プレーヤー部門は、野球の取材に関して15年以上の経験を持つ委員が、7名連記で投票した。当選必要数は231票で、284票を集めた山本 浩二氏と、239票の堀内 恒夫氏の殿堂入りが決まった。一方のエキスパート部門は、競技者表彰委員会の幹事会幹事と、すでに殿堂入りしている競技者が3名連記で投票した。故青田 昇氏が最多となる23票を集めたが、当選必要数の32票には届かず、該当者なし。新設部門といえただけに票の行方が注目されたが、来年以降に期待する結果になってしまった。

(競技者表彰代表幹事 米谷 輝昭)

写真提供：ベースボール・マガジン社



特別表彰委員会

今回は殿堂入りの表彰規定の改正によって、特別表彰委員会は「主にプロ・アマチュア野球の組織や管理に関する方、並びにアマチュア野球を引退した競技者を対象に選考する」存在となりました。既に殿堂入りしたプロ出身者が「エキスパート表彰」の投票人に転じたため、特別表彰委員14人の内、7人が新しいメンバーになりました。

昨年11月の小委員会で殿堂入り候補者10人を厳選しました。新しい候補として、パリーグ広報部長で大リーグ通の「パンチョ」こと伊東 一雄氏、池田高校を夏・春と連覇させた名物監督・蔦 文也氏。プロアマ合流、さらに「長島ジャパン」「星野ジャパン」の生みの親・長船 駿郎氏、選手・監督と社会人野球一筋の名二塁手・古田 昌幸氏の4人が加わりました。

1月9日の特別表彰委員会は構成がプロ野球の役員及び元役員、アマチュア球界から高野連、学生野球、社会人の日本野球連盟。さらに学識経験者、ジャーナリストと広範囲からの人選で、それぞれの立場から活発な意見が出ました。

投票人14名、殿堂入りに必要投票75%は「11票」。投票は3名連記でした。

投票結果は

- ①嶋 清一氏・13票
- ②大社 義規氏・10票
- ③長船 駿郎氏・6票
- 古田 昌幸氏・6票
(以下省略)

こうして嶋 清一氏の殿堂入りが決まりました。2年連続して1票足りずに3年目に決定した嶋氏。昨年の6票から10票に伸ばしても、なお1票不足した大社氏、1票の重さ、殿堂入りの厳しさを痛感した投票結果でした。

嶋 清一氏は伝説の甲子園球児です。1920（大正9）年生まれ、和歌山県立海草中学（現・向陽高校）の左腕エースとして1939（昭和14）年夏、第25回大会で5試合全てを完封、準決勝、決勝をノーヒットノーランという、大会史上初、今も破られない快挙を達成しました。5試合で打たれた安打8、奪三振57。海草中学でセンターを守り、一緒に明治大学に進学した親友の古角 俊郎氏は87歳でご健在ですが「あんなに毎日守

備練習をしたのにセンターには2本しか飛んでこなかった」と嶋投手の豪快なピッチングを懐かしむそうです。明治大学入学後は戦争の激化で大学野球は中止となり嶋投手の活躍の場はありませんでした。やがて学徒出陣、1945（昭和20）年3月インドシナ半島沖の海戦で戦死しました。24歳の若さでした。



嶋 清一氏 プロフィール

1920年12月15日生
1945年3月29日没
海草中学（現・向陽高校）—明治大学
1935年～1939年 海草中学
1940年～1943年 明治大学
1937年夏の甲子園大会から1939年
まで連続5回を含め6回甲子園大会
に出場。

1月11日の記者発表で顕彰者に代わって挨拶をした明治大学野球部総監督・別府 隆彦氏は「平和な時代だったら、嶋さんはもっと野球界に貢献できたと思う」と短い人生を惜しみました。野球ファンには「巨人の星」の主人公・星 飛雄馬の父の戦友「嶋 清一」の名前の記憶があるでしょう。

活躍の時間が限られた嶋氏の殿堂入りは、日本野球の発展に大きな貢献をした方を称える野球殿堂としては異例かもしれません。しかし2008年の今年、春選抜80回、夏選手権90回を迎える高校野球の歩みの中に「多数の甲子園球児の戦死」という悔しい事実があった事、平和だからこそ甲子園があることを忘れないためにも、意義のある嶋 清一氏の殿堂入りと信じます。

(特別表彰委員会委員・西田 善夫)



野球殿堂

野球殿堂は、日本野球の発展に大きな貢献をした方々の功績を永久に讃え、顕彰するために1959年に創設されました。

殿堂入りされた方々の表彰レリーフ（ブロンズ製胸像額）を、野球体育博物館内の殿堂ホールに掲額し、永久にその名誉を讃えます。

以下の2つの委員会より選出されます。

〈競技者表彰委員会〉

プレーヤー表彰

- 対象者 現役を引退したプロ野球選手で、引退後5年以上経過した人。その後15年間が選考対象となる。
- 選出方法 野球報道に関して15年以上の経験を持つ委員（約300人）が投票。75%以上得票した人が殿堂入りとなる。

エキスパート表彰

- 対象者 ①現役を引退したプロ野球のコーチ、監督、審判で、引退後6ヶ月以上経過している人。
②現役を引退したプロ野球選手で、引退後21年以上経過した人。
- 選出方法 競技者表彰委員会選出で殿堂入りした人と競技者表彰委員会の幹事（約50名）が投票。75%以上得票した人が殿堂入りとなる。

〈注〉新規程のため、2008年は経過措置としてプレーヤー表彰選考対象期間を5年延長し20年間とする。それに従いエキスパート表彰で選考対象となるプロ野球選手は引退後26年以上経過した人となる。1年ずつ短縮され、2013年からは規程どおりの年数となる。

〈特別表彰委員会〉

- 対象者 ①現役を引退したアマチュア野球の競技者（選手、コーチ、監督、審判員）で、選手は引退後5年、コーチ、監督、審判は引退後6ヶ月以上経過している人。
②プロ及びアマチュア野球の組織または管理に関して野球の発展に顕著な貢献をした人、しつがある人。
- 選出方法 プロ野球の役員及び元役員、アマチュア野球の役員、野球関係学識経験者（14名）が投票。75%以上得票した人が殿堂入りとなる。





殿堂入りの人々を語る (18)

わが伯父、西村 幸生

西村 隆明 (西村 幸生氏 甥)



1977年殿堂入り
西村 幸生氏レリーフ

伯父は後3年で生誕100年を迎えることとなりました。私の父は3人兄弟の3人目、伯父・幸生はその上の2番目で、私はその父から「兄さんは、兄貴は」と、父から又祖母から聞いた話でございます。私が生れた時はすでに戦地へ出征し、会ったことはありません。3人兄弟の子供（私からは、いとこですが）は13人すべて女子で、西村姓は私だけ墓守りも私がしている状態です。そんな中で育った私は伯父の後に行くのは自分だけだと大胆にも後を追ひ、野球を始めたのはもう50年前のこととなります。

伯父は子供のころから負けん気、正義感が強く、曲ったことは許せないという絵に書いたような強気をくじき、弱きを助ける人であったと聞いております。だから暴れん坊であったかという、当時のあだ名が「かば」で、かばは普段はおとなしい草食動物であるように、優しくでかい動物です。ところが一度暴れだすと手がつけられず、ライオンをも逃げ出すという、そのことを考えるとなるほどの確かなあだ名を頂戴していたのだと感心する次第です。

伯父は関西大学の時も、伊勢に帰ると必ず母校宇治山田中学へ足を運び練習をし、後輩の指導もよくして面倒見が良かったと聞いております。私が野球を始めた頃その先輩方が、「私は球を受けたことがあるが、コントロールがよくミットを動かしたことがない」とか、「よく教えてもらった」と伯父の話聞かせていただきました。その先輩方のご尽力で、伊勢の倉田山球場には先に建てられていた沢村栄治投手の銅像と向かい合うように、伯父の銅像を建てていただきました。伊勢は「はじまりの町伊勢」と言っておりますが、これぞ巨人阪神戦のはじまりであり、伝統の一戦は伊勢から始まったと私は声を大にして言っております。

銅像除幕式の時には、松木 謙治郎氏、カイザー 田中氏にお越しいただき花をそえていただきました。ありがとうございました。

沢村さんが戦死をされ、伯父も戦死し、戦争がなかったらと現在のプロ野球の隆盛をみるにつれ、伊勢はますます特別な地となっていたのではないかと惜しまれます。

伯父は「酒仙投手」と言われるほどお酒が好きで、いつも飲んでいることしか強調されませんが、父の話ですと「伊勢に帰った時でも酒を飲んだ次の朝は、必ずいつもより多くランニングをして汗を流していた、そうでなければのんびりだけでは、あれだけの成績は残せないだろう」と言っております。また、祖母は私に「3人兄弟で長男は酒に飲まれ、私の父は飲めず、幸生は酒を飲む」酒は飲まれるものではなく、飲むものだとよく聞かされました。

生誕100年ともなりますと、伝説に近いものとなります。大学時代の戦績が80勝3敗であったことは、私も野球をかじった者として、80勝は立派であります。3敗しかなかったということは、自己管理がうまく、日々鍛錬を怠らなかったのだと感心しております。

伯父は大学時代ハワイ遠征を2度しており、その時伯母と知り合い結婚をしております。その伯母から「片言の英語ではなく、流暢な英語で全て理解出来た、ハワイでの挨拶も全て英語であった」と聞き、野球と一緒になんでも頑張り屋であったのだと感心をするばかりでございます。

2年前には伊勢青年劇場による『反骨の男 西村幸生』を公演していただき、伊勢にもこんな人がいたのだと言うことを忘れないよう知らしめていただきました。

母校の宇治山田高校でも、生誕100年に功績をたたえ銅像を建立したいというお話も持ち上がっています。また、伯父の出身校厚生小学校と沢村投手の出身校明倫小学校で定期戦を始めようとの話が上がっています。

これもプロ野球が隆盛を極め、大リーグで日本人が活躍をし世界レベルまで来たからこそと思うと同時に、プロ野球草創期に伊勢から2人の名投手が出たことはすごい事であり、誇りにしなければいけないと思います。

子供達に夢を与えるため、伯父と沢村投手のことは語り続けて行きたいと思っております。



コラム／博覧・博楽 (25)



草野球の産みの親の殿堂入りに思うこと

山口 渡 (野球体育博物館 維持会員)

私は以前、4年程の短い期間ではありますが、株式会社東京ドームからの出向として野球体育博物館で事務方として勤務した経験があります。私自身、学生時代と会社の職場において軟式野球の経験があり、野球は大好きだったので、楽しい職場でもありました。野球については見るよりは、する方が楽しいと思うタイプでした。

博物館勤務という一報に家族で一番喜んだのは、当時小学校4年生になる長男かもしれません。当時、彼は近所の少年野球チームに入っており、毎週末になると、家の近くの小学校の校庭で練習と試合を行っていました。ボールは小さい子供でも扱いやすい、あのデコボコのある軟球。部員数は小学校2年から6年生まで総勢40名程度でしょうか。女の子も数名程度含まれていました。

部員が40名ということは、その世話も大変です。監督、コーチは当然として、お茶当番・用具係、小学校を臨時の野球グラウンドにするための設営係等、交代で父兄が行ってチームの活動を支えていました。そして硬式・軟式、年齢を問わず日本の野球選手人口をピラミッド型にたとえ、プロ野球の選手達を頂点とするのなら、底辺は全国津々浦々にあるこうした少年野球チームの選手達ではないかと思えます。息子もその中の一人として、早朝から夕方近くまで、軟式ボールを追いかけていました。彼の将来の夢は、プロ野球選手になることだと聞いたことがあります。博物館には何度となく足を運んでおり、プロ野球の現役選手の名前や成績については、私よりも遥かに詳しく知っていました。

事務方の仕事は経理・総務の業務は当然として、職員が9人しかいないため、博物館の時節において様々な業務をこなさなければなりません。そんな中で忙しく、かつ緊張するのが正月明けの1、2週目の時期。日本球界の発展に多大な貢献をされた方々を選ぶ、野球殿堂の表彰選考と発表がありました。私が勤務した4年間で、競技者表彰、特別表彰で多くの方々が殿堂入りを果たしています。当然、どなたが選ばれても事務方として、厳正かつ粛々として振る舞わなければいけません。特に印象深い表彰者がいました。実際には、印象深いという表現より、自分のことのように喜んだというのが適切かもしれません。それは現在の軟式野球ボールの原型となった「少年野球用ゴム球」の考案者、鈴鹿 栄(すずか さかえ)氏が選出された時のことです。軟式野球の生みの親となっている人です。

小さい子供でも扱いやすい安全性の高い軟式ボールの出現で、日本の野球は、観るスポーツとしてだけでなく、行うスポーツとして、わたくしたちの生活の中でなくてはならないスポーツになりました。現在、日本はバレー、テニス、サッカーなど様々なスポーツが普及していますが、軟式野球が我が国で最大の人口を持っています。軟式ボールは日本が生んだ大発明の一つではないでしょうか。鈴鹿氏の殿堂入りは、多くの軟式野球を愛する者にとって、吉報となったのです。

博物館の中で、もっとも神聖で厳粛な場所は殿堂ホールです。そのホールの片隅に2003年新世紀特別表彰による鈴鹿 栄氏のレリーフがあります。草野球の産みの親がいる場所。そんな日本固有の野球歴史を身近に感じる場所が、ここにあるのです。

後日談になりますが、軟式ボールによる安全性、ちょっとした広場でキャッチボールができるという利便性を痛感しました。最近、時々硬式球で息子とキャッチボールをすることがあるのです。息子も大きくなり、高校で硬式野球をやっているのだから、その相手をさせられているからです。だが、キャッチボールといえども硬式球では、場所の確保が大変です。仮に場所があっても、安全性を確保するため、通行人がいないか、近くで子供が遊んでいないかなど周囲を確認しなければなりません。以前、週末の日曜日だと思いますが、家の近くの公園やグラウンドでは人がいて出来ず、硬式球でのキャッチボールをするために、荒川の河川敷まで、子供と車で15分かけてドライブしたことがあります。軟式ボールの利便性を痛感しました。

(先日、久しぶりに博物館を訪ねて、自慢できたことがありました。イベントコーナーのバッターボックス体験コーナーで3打数3安打(10割の打率)のバッティングを子供達の前で披露することが出来ました。ヒットを打つタイミングをまだ体が覚えていたのです。子供達からは尊敬の眼差しで見つめられました。皆さんも博物館に出かけられたら、バッターボックス体験コーナーで挑戦してみてください。)



《維持会員を募集中！》

財団法人野球体育博物館は、昭和34年に野球専門の博物館として開館して以来、野球や体育に関する資料を収集・保管・公開してきました。バット等の実物・写真資料は約3万点、図書・雑誌は約5万冊を収蔵しており、展示や閲覧という形で多くの方々に利用していただいております。

また、年1回競技者表彰委員会と特別表彰委員会にて野球界の功労者を選出し、「野球殿堂入り」として表彰しています。

維持会員とは、このような博物館の事業にご賛同いただいた方々に、維持会費をお願いし、博物館の運営をご支援いただくものです。

1. 会員の特典

- (1)当博物館発行「ニュースレター」(季刊)送付します。
- (2)無料で博物館に入館できる優待証を発行します。
- (3)アメリカの野球博物館(クーパースタウンにある)にも無料で入館できます。
- (4)会員以外の方でも利用できる博物館招待券を差し上げます。
- (5)イベント情報などを優先的にご案内します。
- (6)博物館で販売している商品が10%引きになります。

*新個人会員には上記の特典のほか、『野球殿堂2007』を進呈します。

*新ジュニア会員には上記の特典のほか、「野球体育博物館オリジナルピンバッチ」を差し上げます。

2. 会員の種類と会費

年会費(4月～翌年3月迄)

法人会員	1口	10万円
個人会員	1口	1万円
ジュニア会員(小・中学生)		2,000円

ご入会月により、初年度年会費の割引があります。

ご入会月	4月～9月	10月～12月	1月～3月
維持会費(個人会員)	10,000円	5,000円	2,000円

3. ご入会の方法

- ①館内にあります「維持会員募集のご案内」の“入会申込書”に、必要事項をご記入のうえ、係りにお渡しいただくかお送りください。
「維持会員募集のご案内」は郵送もいたしますので、ご希望の方は博物館までご連絡ください。
- ②“入会申込書”が届き次第“維持会費のご請求書”をお送りしますので、維持会費をお振込みください。

お問い合わせ 博物館 業務部 ^{タカギ}高城・竹内
皆様のご協力、よろしくお願い申し上げます。

博物館からのお知らせ

【図書室リニューアルオープン】

1月2日、図書室がリニューアルオープンしました。今までに比べ、明るく広くなりました。今後蔵書の充実をはかってまいりますので、ぜひご利用下さい。



◆図書室利用時間

3月～9月 10時～12時・13時～18時
10月～2月 10時～12時・13時～17時
*12時～13時までは閉室となります。

【WBC優勝トロフィー展示再開】

博物館に「WBC優勝トロフィー」が戻ってきました。ウイニングボール、優勝メダルなどとともに展示していますので、ぜひご覧下さい。

【訃報】

1993年殿堂入りの稲尾 和久氏(享年70歳)が11月13日に逝去されました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

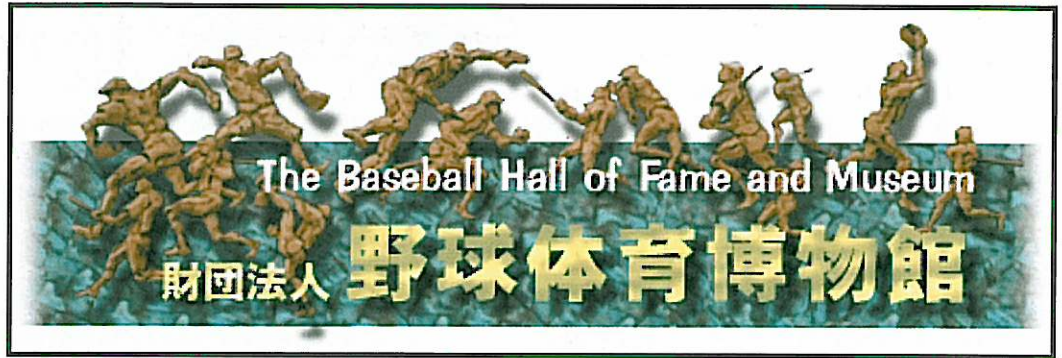
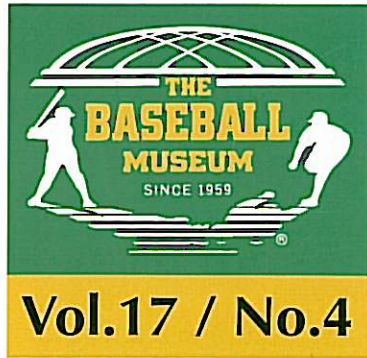
● 博物館のご案内

場 所 東京ドーム21ゲート右
開館時間 3月1日～9月30日 AM10時～PM6時
10月1日～2月末日 AM10時～PM5時
(入館は閉館の30分前まで)
入館料 大 人 500円(300円) ()は
小・中学生 200円(150円) 20名以上の団体
65歳以上 300円
休館日 月曜日(祝日、プロ野球開催日、春・夏休み中の月曜日は開館)
年末・年始(12月29日～1月1日)
《2月・3月・4月の休館日》
2月 4日・18日・25日
3月 3日・10日・24日
4月 7日・14日・21日・28日

●編集後記 北京オリンピックの年が明けました。星野ジャパンの“金メダル”獲得を願って、みんなで応援しましょう。今回は紙面の都合により、「知ってほしいこんな資料」と「こんにちは図書室です」は休載します。

Newsletter Vol.17 / No.4

2008年1月25日発行
編集・発行 財団法人 野球体育博物館
〒112-0004 東京都文京区後楽1-3-61
Tel 03(3811)3600 Fax 03(3811)5369
<http://www.baseball-museum.or.jp/>
定価 100円



リレー随筆(31)

有本 義明 (特別表彰委員会委員)

ある日曜日、父親に連れられて甲子園に還ってきた沢村 栄治投手を見る。小学校高学年になっていた。「これが沢村なの?」

「そうらしいな。けど投げ方が違うな」

私の疑問に父親の応えもはっきりしない。この前に見た沢村は足を高く上げ、もっと颯爽としていたのに、いま目の前で見ると沢村は体が細くなっていて、ボールは速くなかったし、あの懸河の如きドロップもなかった。全米軍を牛耳ったり、タイガース戦の無安打無得点第1号の凄い噂はいっぱい聞いていた沢村とは確かに別人であった。下手投げの沢村は阪神打線にいいように打たれた。

阪神電車の「甲子園」の駅のすぐ北に住む当時は、「兵庫県武庫郡鳴尾村字小松」から鳴尾尋常高等小学校に通っていた。イチゴ畑の連なるのどかな風情は、ここに学んだことのある森繁 久弥がとくにエッセイなどで紹介している。

当然のように阪神の勝利に喜ぶ一方では父親と子どもなぜか釈然としないものが残っていた。

後年2度の兵役で満州(いまの中国北東部)に赴き、手榴弾を投げたため肩の腱を痛めたという。

プロ野球草創の昭和12年(1937)、春24勝、秋9勝もした大投手も、13、14年は戦地にかり出され、15年7勝、16年9勝ともう昔の姿に戻ることもなく17年再び戦火にまみれる。そして18年、4試合に投げて3敗、肩の老いた投手は1勝もできずに沢村の戦績はここで終わっている。もはや敗戦が決定的となった19年、レイテ島への輸送の途中、台湾沖で撃沈されて還らぬ人となった。

千葉 茂さんは「なぜ彼1人が3度も召集されなければならなかったのだ。日本野球界の宝だったのに」と悼んだ。

藤本 定義さんは「第1期黄金時代は彼のお蔭、彼女の見に来る日は決まって「監督、今日は投げさせてくれ」といってくる。可愛げある男だったが肩を痛めてからはいつも悲壮なマウンドだった。彼自身一番辛い思いをしたらろう」と偲んだものである。

甲子園近くに育った子供らは球場前の広場は格好の自転車練習場で、立ち乗りや3人乗りや荒っぽい乗り方で、誰かが怪我をしていた。

プロ野球の練習日には野球少年たちは外野を駆け巡ってボール拾いを手伝った。いつも「坊主またきたのか」と言いながら藤村 富美男さんはボールやヒビの入ったバットをどこからか探してきては「ハイお土産」と称していた。伊賀上 良平や土井垣 武や皆川 定之やみんな顔は怖い優しいオジさん達だった。

長じて高校野球で3度も甲子園のマウンドを踏み、さらにはスポーツライターになってからどれほど甲子園に通ったことか。

春のキャンプが高知に移り、やがて安芸がタイガータウンとなった。小山 正明や村山 実やバッキーまでみんなここで育った。

江夏 豊2年目のキャンプに、小高い山を削った海に見えるブルペンで凄いものを見た。天覧試合で捕手だった山本 哲也を相手に江夏が「外角にはずします」と言って親指と人差し指を少しだけ開いて見せた。それからはまさに江夏のワンマンショー、きわどいコースに面白いようにきまる投球を受けながら山本は「こいつはきつととんでもないピッチャーになりよる。」予言は見事に当たった。

殿堂はそんな凄い人達が一堂に会する場所なのである。